授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅵ　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	冨樫　大	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	W4-2010c				

【授業の主題】

排泄ケアは、基本的かつ尊厳に関わる行為で、本演習では、身体メカニズムに基づいた排泄アセスメント能力を養うとともに、羞恥心への配慮と自立支援を両立させる具体的な介助技術を習得する。

【到達目標】

１．排泄に関する身体の仕組みとアセスメントの視点を理解し、説明できる。
２．利用者の尊厳とプライバシーを守る安全・安楽な介助技術を習得する。
３．自立支援の観点から、適切な環境整備（福祉用具・住環境）を提案できる。
４．現場での観察情報が、実際のケアや相談業務にどう直結するかを理解することができる。

【授業計画・内容】

第 1 回　人間にとって排泄とは何か、排泄の意義・目的
第 2 回　排泄のメカニズムとコントロール
第 3 回　排泄に関するアセスメント　①ICF の視点
第 4 回　排泄に関するアセスメント　②自立している場合と障害がある場合の清潔
第 5 回　機能低下・障害がある場合の援助と留意点　①感覚機能が低下している場合
第 6 回　機能低下・障害がある場合の援助と留意点　②運動機能が低下している場合
第 7 回　機能低下・障害がある場合の援助と留意点　③認知機能が低下している場合
第 8 回　その他（自己導尿、ストーマ、浣腸、坐薬等）の状態に応じた介護
第 9 回　安全・安楽な介助の技法　①便・尿器のあて方
第 10 回　安全・安楽な介助の技法　②ポータブルトイレでの排泄
第 11 回　安全・安楽な介助の技法　③おむつの着用
第 12 回　安全・安楽な介助の技法　④おむつ交換
第 13 回　実技チェック
第 14 回　排泄介護における多職者との連携
第 15 回　福祉用具の活用と身近な物品の工夫

【授業実施方法】

グループワークおよび演習形式で行う。介助者役・利用者役を交互に体験し、身体的・心理的な気づきを共有する。個別性に合わせた介助方法をディスカッションする。

【事前・事後学習】

事前学習：前回の演習で学んだ手技のポイントを復習し、関連するテキストの該当箇所を確認しておく（30 分）。
事後学習：今回の演習で実施した手技のプロセスを振り返り、留意点や自己の課題を整理する。（30 分）。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ〈中央法規〉

【参考文献】

適宜紹介する

【成績評価方法】

筆記試験（知識の習得）60%、実技チェック（技術の習得）30%、演習への取り組み 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

施設・居宅の両現場における実務経験に基づき、単なる作業ではない、利用者の羞恥心や排泄の自律を尊重したケアのあり方を教授する。身体メカニズムに基づいた排泄アセスメントや、福祉用具を適切に活用した環境整備、肌トラブルを防ぐ清潔保持について、エビデンスに基づいた実践的な指導を行う。

【学生へのメッセージ】

排泄ケアは、利用者の生活リズムや健康状態、そして「心の平穏」に深く関わる支援です。本演習では、排泄の仕組みを理解し、自立を促しながらも羞恥心に配慮した具体的な介助方法を学びます。介護の現場では、排泄の悩みや肌の状態、排泄パターンの変化に気づける力が専門職の根幹を支えます。医療職への的確な相談、利用者、家族への助言には、観察と実践の積み重ねが信頼につながります。プロとしての確かな土台を、この演習を通して築いていきましょう。